

こまきこども未来館講座運営評価シート

【評価点について】

S	評価のポイントを意識し取り組み、また改善・発展させ、大きな成果が出ている。
A	評価のポイントを意識し取り組み、また改善・発展させている。
B	評価のポイントを意識し取り組んでいるが、さらなる発展を期待する。
C	評価のポイントを意識し取り組んでいるが、取り組みを評価できる状況まで至っていない。
D	評価のポイントの一部又は全てに取り組みしていない。

あそび	利用対象児童(0歳～18歳)が日常的に気軽に利用できる環境づくり 自己評価点 A 講座運営会議評価 S 【評価のポイント】 ・児童館は0歳～18歳までのすべての児童が自らの意思でひとりでも利用することができる環境づくりが大切。 ・すべての児童が気兼ねなく、いつでも、何度でも気軽に利用できる環境となっているか。 ・すべての年齢層が十分に利用できているか。	自己評価点 A 講座運営会議評価 A
	活動を通じた発達の増進 自己評価点 A 講座運営会議評価 A 【評価のポイント】 ・児童館は、児童と長期的・継続的に関わり、遊びや創作活動などを通じて、児童の発達の増進を図ることが大切。 ・児童の発達の特徴や発達過程を理解し、個人差を踏まえて知識や技術の習得に向けた身体活動や創作活動ができているか。 (参考) 乳幼児期：大人との信頼関係を基にして児童同士の関係をもてるようになっていく 児童期：多様で創意工夫が加わった遊びを想像できるようになっている 思春期：自分と仲間に対して信頼と安心を抱けている	自己評価点 A 講座運営会議評価 A
	児童が主体的かつ創造的に活動できる環境づくり 自己評価点 A 講座運営会議評価 A 【評価のポイント】 ・児童館は決まった遊びを児童に与えるだけでなく、主体的かつ創造的に活動できることが大切。 ・児童が、自由な発想で工夫して創造できる環境となっているか。 ・児童の自主性や主体性を育む企画となっているか。 ・児童の意見の聴取やその反映をできているか。	自己評価点 B 講座運営会議評価 A
交流	学びを振り返り成長を実感できる環境づくり 自己評価点 B 講座運営会議評価 A 【評価のポイント】 ・主体的に活動を進めるには、これまでの学びを振り返り、自分を客観視し、次の学びへ繋げる連続性が大切。 ・目的や方法を自ら考えることができる力を育てる環境となっているか。また、働きかけができているか。 ・これまでの自分の活動を振り返ることができる仕組みや環境を設けているか。	自己評価点 A 講座運営会議評価 S
	利用者の関係性を豊かにする交流環境づくり 自己評価点 A 講座運営会議評価 S 【評価のポイント】 ・児童館は幅広い年齢の児童が出会い、交流できる場であることが大切。 ・講座や活動において、異年齢児童と一緒に交流しあって取り組める工夫がされているか。	自己評価点 A 講座運営会議評価 A
	障がいのある無や国籍の違いを越えて児童がお互いの理解を深める取り組み 自己評価点 A 講座運営会議評価 A 【評価のポイント】 ・すべての児童を対象とする活動を行う児童館では、様々な児童がお互いに理解を深められる工夫が大切。 ・障害の有無や、国籍の違いを越えて思いやりを育み、学びあいができる働きかけや工夫ができているか。	自己評価点 A 講座運営会議評価 A
講座	様々な遊びや体験を通して楽しみながらそれぞれの学びを見つけ、未来リテラシーを育む取り組み 自己評価点 A 講座運営会議評価 A 【評価のポイント】 ・目標達成にむけて年度毎に設定された計画を達成できたか。 ※目標：実施計画における中長期のVisionを指す	自己評価点 A 講座運営会議評価 A
	様々な遊びや体験を通して楽しみながらそれぞれの学びを見つけ、未来リテラシーを育む取り組み 自己評価点 A 講座運営会議評価 A 【評価のポイント】 ・目標達成にむけて年度毎に設定された計画を達成できたか。 ※目標：実施計画における中長期のVisionを指す	自己評価点 A 講座運営会議評価 A

保
護
者

運
営

保護者にとっても楽しく過ごしやすい環境づくり		自己評価点	A
【評価のポイント】 ・保護者同伴で来館する幼児親子などにとっては、一緒に体験する保護者も過ごしやすいことが大切。 ・児童だけでなく、保護者も一緒に楽しむ工夫や、くつろげるよう取り組みがされているか。		【評価点の理由】 ダンボールの大きな車を新造し、より大人数で楽しめるワゴンタイプにした。木材による基礎部分の構造を強化したことで耐荷重性が上がり、複数の大人が乗っても十分に耐えるものとなった。親子で乗り込み、空想のドライブを笑顔で楽しむ姿が頻繁に見られた。自由工作においても、保護者とともに熱心に工作に取り組む子どもが多く、休日などはしばしば機の増設が必要となった。	【評価に対するコメント】 保護者と子どもが一緒に楽しめる工夫として、新しい「大きい車」の完成によって親子で乗り込みながら笑顔でドライブを楽しむ様子が多く確認できた他、自由工作においても親子で熱心に取り組む姿が見られたことから、保護者にとっても過ごしやすい、一緒に楽しめる環境がつけられていた。
保護者同士の交流環境づくり		自己評価点	A
【評価のポイント】 ・児童館における保護者同士の交流は、子育ての悩みや喜びを分かち合う大切な機会である。 ・活動への参加だけでなく、保護者同士が交流する機会となるよう意識した運営となっているか。		【評価点の理由】 「ハイハイレース」や「おねんねアート」を企画し、多くの乳幼児親子の参加を得ることができ、同じ年代の子を育てる保護者同士が、一緒にこどもの成長を喜ぶ機会になった。イベントでは、初対面の保護者同士ということもあり、お互いに困りごとなどを積極的に共有するまでには至っていないが、4Fニコニコひろばの利用促進にも繋がっており、日常的な来館や職員の声かけもあわせて継続していきたい。	【評価に対するコメント】 初対面の保護者同士の距離感の難しさはあるものの、乳幼児親子を対象としたイベントが、同じ空間でこどもの成長と一緒に喜び合える場として保護者同士の交流のきっかけになっていた点を評価する。引き続き、ニコニコひろばの利用促進にも期待し、日常的な来館や職員の声かけによる継続的なコミュニケーションの積み重ねによって、今後の保護者同士の繋がりをさらに深めていただきたい。
地域との積極的な連携および地域住民が関わりやすい環境づくり		自己評価点	S
【評価のポイント】 ・地域ぐるみで一緒により良い児童館を創り上げていくために、地域の団体や企業、住民との良好な連携が大切。 ・地域の団体や企業、住民に積極的に協力や連携を働きかけているか。また、様々な形で連携を行っているか。 ・団体、企業などのグループだけでなく、地域住民や保護者などが個人でも関わりやすい環境となっているか。		【評価点の理由】 「交流・体験CAMP」出展の申請も増えており、開催回数も年を追うごとに増え、参加人数も右肩上がり(2023年度 272回/15,913人→2024年度 333回/22,281人)。サポーターの登録数も増加(2023年度 177人→2024年度 201人)。パートナーシップ企業・団体は107社から128社まで拡大した。地元企業3社と連携し、TechGALAのサイドイベントで「あそびアイデアチャレンジバトル」と題し、地域の企業で働く大人が考えた遊びを子どもたちに体験・審査してもらうイベントを開催できた。また、サポーターだけでなく、保護者からも工作用の資材提供を受けることが増えているなど、地域の方々が多様な形で未来館の運営に関わる環境が整いつつある。	【評価に対するコメント】 「交流・体験CAMP」などへの参加人数の増加、さらにサポーター登録数やパートナー企業・団体の増加は、未来館が地域にひらかれた施設としてより認知されるようになったと考える。特に「あそびアイデアチャレンジバトル」での地元企業との連携は、地域全体の未来館への関わり方の多様化にも繋がっていた点を評価する。今後も地域の方々为主体的に施設運営に関わっていただける環境づくりに努めていただきたい。
利用促進につながる効果的な広報活動		自己評価点	A
【評価のポイント】 ・運営への理解を広め、ここでしかできない活動の魅力の周知は、活動への参加を促すために大切な活動である。 ・効果的な広報活動ができているか。施設周辺地域だけでなく、市域全域(及び市外)に広く広報できているか。		【評価点の理由】 Instagram、Facebookについて、2024年11月より市職との共同運用を開始した。これにより、市職にて開催するイベントや講座の告知も開始。未来館の来館層が必要とする情報に格段にアクセスしやすくなった。また、講座等の告知にとどまらず、未来館で過ごす来館者の様子や初めて来館する人に向けた情報など、発信内容の見直しを行った。	【評価に対するコメント】 これまでに比べ、講座・イベントの情報がより多くの人に届くよう取り組んだ点や、初めて来館する人に向けた発信など利用者目線での工夫が加わった点は評価する。SNS利用層のニーズに合わせた発信に向けて引き続き見直しを期待する。
児童への関わり		自己評価点	A
【評価のポイント】 ・児童館の職員は、活動の援助・指導と共に、個々の児童に対して体調や心理状態に応じた適切な対応が必要。 ・失敗やトラブルに対し、自己肯定感を育み、より良い方向へ成長していけるよう適切な関わりができているか。 ・一人で来館したり、悩みや不安を抱える児童へ適切な関わりができているか。		【評価点の理由】 定期的に職員研修を実施するとともに、外部機関の研修にも職員を派遣し、こども理解やこどもへの対応力の向上に努めている。また、全職員に配布する部内報「チャレンジ」を定期的に発行し、時事に応じた子育てや教育に関連する記事を通じて、こどもと接する上での知識やスキルの向上につながる取り組みを継続している。また、館内で発生した様々な事象を共有することを心がけるとともに、特にトラブルや問題行動に対しては、その対処方法や日頃からの留意事項などについて職員間の対話を大切にして随時解決を図っている。また、居場所としての繋がりの取り組みの中で、「自分の居場所」という安心感の下で過ごしているこどもも増えている。人的・時間的な制約もあり、こどもとの関わりに十分な時間をとれない面もあるが、職員相互の情報共有と引継ぎを積極的に行うことによって補い、安心できる居場所としての児童館機能の維持に今後も尽力したい。	【評価に対するコメント】 定期的な職員研修や外部研修参加によって、職員のこども理解や対応力の向上が図られていた。日常的な居場所として「自分の居場所」という安心感を感じているこどもが増えているという点も、児童館としての根本的な意義を体現しているといえる。引き続き市の厚生員とも情報共有や引継ぎを丁寧に行うことで、児童館としての機能を継続的に維持していただきたい。